

Tricolor

大会・公式戦結果

Top

【県リーグカップ】

▼予選

vs 日本工学院 F マリノス 3-1○
(予選 2 勝 0 敗で順位決定トーナメントへ)

▼準決勝

vs 平塚 SC 5-1○

Youth

【県 CY リーグ最終戦】

vs ヴェルディ相模原 B 0-2●

小 6

【サザンカップ】

▼予選リーグ

vs 横浜深園 SC 0-1●

vs サザン FC 2-0○

vs 一本松 SC 1-0○

※2 勝 1 敗にて予選リーグ 2 位

▼準決勝

vs サザン FC 1-4●

▼三位決定戦

vs 鶴見東 2-1○

※9 チーム中 3 位

小 3

【SO-BUS CUP(相鉄バス招待杯)】

vs FC 相模野 3-0○

vs 綾南オレンジサッカー団 3-2○

vs 海老名キッカーズ 2-2△

※2 勝 1 分にて B ブロック優勝
(16 チーム中 4 位)

Papas

【県議長杯】

vs パファーマーズ 11-1○

vs 多摩クラブ 0-2●

今、グラウンドでは・・・

Top

【新年度スタート】

みなさま、明けましておめでとうございます。TOP チームは 1 月より新しいスタートを切ることになりました。まず、TOP チームの田村監督と河原コーチの契約を 12 月を持って終了したことをお知らせいたします。新監督についてはまだ未定ですが、それまでの間は選手だけで試合や練習をこなしていかなければなりません。社会人という自覚を持って新チームの体勢ができるまで強い信念でやらなければなりません。

さて、現在 TOP チームは県リーグカップを戦っております。予選リーグ



で2勝をあげ各リーグの1位が集まった順位決定トーナメントの準決勝でも快勝し、1月22日(日)(場所時間未定)に決勝戦が控えています。TOP チームは横浜市単位の大会では優勝がありますが、県社会人単位で優勝したことはありません。この大会に優勝し、来期のリーグ戦に弾みをつけたいところです。

今年もTOPチームの応援をよろしくお願いいたします。

【TOP チームホームページ】

<http://www.kanagawaclub.com/topteam/> (中本 洋一)

Youth

今年度の公式戦がすべて終了しました。結果は惨敗。選手たちの意識の違いから、全員がそろって戦うことのできた試合がほとんどありません。「受け皿」として存在している以上、ある程度はやむを得ないことかもしれません。「大都市でのこの年代の街クラブの運営は難しい」とはよく言われることです。

しかし、伝統あるかながわクラブのユースとして、もっとプライドを持ってほしいと思いますし、トップチームのすぐ下部に位置する育成組織として、胸を張れる存在になってほしいと願っています。そのための方策を、できることから少しずつ行おうと思います。1年ですぐに結果が出るとは思いませんが、少しだけ長い目で見守っていただければ幸いです。

今後とも応援の程お願いいたします。(内田 佳彦)

Junior Youth

新年明けましておめでとうございます。昨年は震災等があり、とても心が痛む一年となりましたが、今年は昨年よりも、なお強い団結力でチームとして頑張っていきたいと思っておりますので、何卒よろしく申し上げます。

12月から始まりましたU-15リーグも現時点で4ゲーム消化しておりますが、結果は誠に残念なことに0勝4敗、得点0、失点37という結果です。

この一ヶ月間、トレーニングでは、ファーストタッチ、周りをみるトレーニング(状況判断)を中心に行ってきましたが、試合では残念ながら、まだまだ生かされていないのが現状です。その原因としましては、選手一人一人が「自分は出来ている、出来る」という大きな勘違いがあり、いざゲームになると相手の判断のスピード、寄せ、プレッシャーにことごとく潰されているのが現状です。この問題を打開していくには、「自分は・・・」という気持ちを捨てることが大事なことだと思います。サッカーはチームプレーであり、自分ひとりができているから良いのだと思うことをチームとして払拭していかなければ、この問題を解決することはできません。

この問題に関しては、誰しもがわかることだと思いますが、どのような対処、対策をとるかによって、自ずと結果が大きく変わってきます。そのひとつの例として、「仲間を観察する」という洞察力を身につけることによって、対処でき、そしてゲーム中での

選手間意思疎通に繋がってくるかと思われまます。

3月までは、この結果に恐れず、今チームで行っていることを信じ、立ち向かい、そして継続していくことが選手一人一人の自信となります。そして、それが結果に繋がります。残りのリーグ戦を後悔することのないように、勇気をもって全力で挑んでいきましょう。

3年生は、受験まで残りわずかなりましたが、体調管理を怠らずに本番の日をベストで迎えて、結果を勝ち取ってください。心から応援をしています。今までサッカーで培ってきた忍耐力、そして精神力をもって挑んでいけば、おのずと結果はついてるはずですよ。(河原 昌司)

小 6

【本年もよろしくお願い申し上げます】

小学生生活も卒業まで残りわずかになりました。県選手権、区選手権と大会も続きますが引き続き元気に活動していきたいと思っております。

【公式戦への取組】

既にご案内の通り、1/8 から第38回神奈川県少年サッカー選手権大会、1/28からは第15回神奈川県少年サッカー選手権大会に参加します。既にそれぞれの大会への参加メンバーを案内していますが、各大会には公式戦用クラブユニフォームを着て臨みます。かながわクラブの一員としての誇りを持って、これまで取

り組んできた経験を自信として現時点で持てる力を存分に発揮して欲しいと思います。

【応援してください！】

各大会に臨むにあたり、選手たちは頑張ろう!! という気持ちを持つと同時に多少の緊張を感じているものと思います。保護者の皆様には、プレッシャーをかけることなく温かく見守っていただきたくお願い致します。また、是非とも会場に足を運んでいただき声援を送ってください。選手たちに間違いなく大きな勇気を与えてくれるものと信じています。心からのお願いです。 (小野津春)

小 5

【第 37 回横浜少年サッカー大会】

毎年 1 月、横浜市内の登録チームを対象に U-11 の大会が開催されます。すでに昨年 11 月に抽選が行われており、かながわクラブは初戦でいずみ野サッカークラブと対戦することが決まっています。今大会は、敗退すれば終了となるトーナメントでの戦いになります。リーグ戦であれば、試合に応じて出場選手を入れ替えることが可能ですが、トーナメント戦ではその1試合のことだけを考えると試合運びをする必要があるため、選手間で出場時間に差が出てくることが予想されます。

スタートからピッチに立つためには、①闘うメンタリティが備わっている、②勝利を旨として全力でプレー

する、③チームのために汗をかく、この3つが最低限必要になると考えています。先発メンバーに選ばれるよう、最後まで自分の長所をアピールし続けてください。

今大会の目標は、初戦突破です。トーナメント戦を一つでも勝ち上がることは本当に難しいと思います。もちろん、1 点を奪うことも簡単ではないでしょう。負けたら終わりという独特な雰囲気の中、みんなが持っている力をどこまで発揮することができるか、コーチも楽しみにしています。

(鈴木 章弘)

小 4

【誰にでもできる大切なこと ～ 一生懸命にやること～】

最近、試合のときに子どもたちに強調していることは、まずは「考えること」、次に「一生懸命にやること」です。30名在籍している4年生の中には、勿論、上手な子も上手でない子もいます。また、考え方が大人びている子も、幼いままの子もいます。三十人三十色の子どもたちを前にして、なかなか一般的なことをアドバイスすることは難しい面があります。練習のときであれば一人一人に細かなアドバイスができますが、試合の際にはなかなかそう簡単にはいきません。

そこで、自己の最善を尽くすこと＝一生懸命にやることを伝えるようにしています。上手な子が手を抜いているいい加減なプレーをしたり、下手

な子が最初から諦めて及び腰のプレーをしたりすることを許しません。あらゆるスポーツ(もしかすると勉強も…)において、勝敗に関係なく自己のベストを尽くすことでしか向上は望めません。試合後に歩けないくらいに消耗している子どもが出てくるのが理想です。

また、一生懸命にやることは誰にでもできることなのです。あまりサッカーが上手でない子に上手なプレーをしなさいというのは酷です。そして、サッカーの上手な子が手抜きプレーに終始することはスポーツへの冒瀆です。その後の向上は期待できないでしょう。技術の差に関わらず個々の能力の最大限を発揮することは誰にでもでき、しかも、とても大切なことであることを徹底させたいと思っています。子どもたちに一生懸命にやることの重要性を説き、ミスを責めるのではなく一生懸命にプレーする仲間を認め、チーム全体に一生懸命にやる雰囲気を溢れさせたものです。

【一生懸命が言い訳にならないように…】

子どもたちは間もなく5年生になります。一生懸命にやることは試合のときだけでなく練習のときにも要求されます。「試合で一生懸命にやったから…」という言い訳は通用しません。試合の中で実感した上手くできなかったことやもっと上手になりたいことをしっかりと認識したら、練習のときにも一生懸命にそうした課題を克服するように努力をしなければなりません。

ん。

指導者には課題克服のための環境を子どもたちに提供する責任があります。そこで5・6年生になるとA・Bというチーム分けによる活動が増えます。4年生の秋のリーグ戦において採用したA・Bというチーム分けが本格的になります。ある程度同じくらいのレベルで活動するほうが教育効果が上がるということがあります。しかし、何よりも重要なのは自分がやらなければならないということが強く意識できることです。気持ちの強い子はどのような環境に置かれても、上手な子に遠慮したり、気後れしたりすることなくプレーできますが、かながわクラブの子どもたちは育ちの良さが邪魔して、他人を押しつけてでも…というのが苦手です。止むを得ず、ある程度レベルを揃えた環境を与える必要が不可欠なのです。

【現実の厳しさに直面】

低学年でA・Bのチーム分けをしない理由の一つに、早期のレベル分けによる子どもたちのモチベーションの低下があります。技術や意欲にそれほど差がない段階で、効率の良さだけを追求してチーム分けをすることが、子どもたちのやる気を削いだり、逆に勘違いをして天狗になったりすることもあります。しかし、高学年になれば、きちんと「あなたのレベルはBです。Aになれるように努力しましょう」というアドバイスも必要になります。そういう厳しさに直面しても、受け容れることができる年齢とも言えるでしょう。

A・Bのチーム分けは流動的なもので、A・B間の入れ替えは随時行われるようになります。Aだからといって油断して努力を怠ったり、Bだからといって腐らずに努力をすれば、たちまち入れ替えとなります。そうした別の厳しさにもさらされる覚悟を持たなければなりません。仲間を尊重し、チームの中では力を合わせてプレーをすることが求められますが、切磋琢磨という言葉もあるように一人一人がお互いをライバルと考えて競い合い、高めあうことも求められるのです。

【何があっても親は見守っている】

さて、子どもたちが現実の厳しさにさらされているときに親としては何ができるでしょうか。励ますこと、慰めること、驕りを戒めることなど様々考えられますが、何よりも大切なのは、どんなときでも「見守っている」ということを言動で示すことです。家の外では厳しい現実の壁がありボロボロになって帰宅します。家が癒しの場でなければ子どもたちが休める場がありません。サッカーのことに触れて欲しくないときもあるでしょう。逆に、試合や練習のときのプレーを褒めて欲しいときや悩みを聞いて欲しいときもあるでしょう。

子どもを守るのは親しかいません。そんな大袈裟などと考えずに、常に最大限の愛で子どもたちを包み込んで欲しいものです。親が命懸けで子どもを守る姿勢を示すことは子どもの安定につながります。子どもが

安定すれば、持っている能力を最大限に発揮することが可能になります。この年末に、特に強く感じさせられました。新たな年も、子どもたちが元気よく、生き生きと活動できるように努力したいと考えます。宜しくお願い致します。(佐藤敏明)

小3

【新年のご挨拶】

あけましておめでとうございます。旧年中は合宿発案、審判協力、芋煮会開催等いろいろな面でご協力頂きありがとうございました。本年も子供たちが成長できる環境作りにご協力お願い致します。

本年はサッカー選手としての第一歩として、自分で出来ること、チームの一員として出来ることを、なるべくお父様やお母様の助けがなくても出来る様になってもらいたいと思います。

サッカーを通して自分で出来ること、自分の意思で考え行動すること、困難を乗り越えること等を身につけてもらいたいです。保護者の方々にはサポーターとして、練習から出来るだけ多く彼らのプレー、行動を見守りつつ、成長を(押しつけはせず、我慢し)見守ってほしいと思います。

しかし、関知しないのと、応援をしながら子供たちの意思を尊重し、彼らの成長を待つことは大きく違うと考えますので、練習時からどしどし応援に駆けつけて下さい。宜しく願いいたします。

【3つのテーマ】

今年も「常に顔を上げながら(振りながら)いい判断をする」「常に手を抜かずにプレーする」「まずはゴール、シュート(フィニッシュ)が優先」がテーマです。昨年後半にはフィニッシュの意識が芽生えて来た選手も出てきました。

今年もどんな状況でも以上の3つのテーマが実施できる様に技術力をあげていかなければなりません。選手全員にチャンスはありますし、今出来なくてもコツコツ練習すれば必ず上手になる日が来るはずです。それが小学生か、中学生か、高校生かは人それぞれ違いますが、練習は絶対に嘘をつきません。そういった意味でも、とにかくボールに触る機会を増やして、自分より上手な人や上の学年の人とサッカーをする機会を増やして欲しいと思います。

今年は4年生として市の公式戦もある年となります。保護者の方々にも昨年以上にご協力頂くことになるかもしれませんが、何卒宜しくお願いいたします。今年も盛り上げていきましょう！！ (益子 伸孝)

小2

昨年中は大変お世話になりまして、ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年の12月には、秋の横浜国際チビッツサッカー大会以来となる練習試合が2試合ありました。各選手それぞれに1年間の活動や公式戦

を通して大きく成長した姿を見せてくれました。結果としては表れていなかったものの練習でやったことを試してみようとトライするシーンも多く見られ、収穫の多い練習試合となりました。

ただ一方で課題も多くありました。一番の課題は試合に対するがむしゃらさが足りない選手が多かったということが挙げられます。公式戦や対外試合のときだけ一生懸命やろうとしてもなかなかうまくいきません。普段の練習でのデカゲームやミニゲームのときから公式戦や対外試合のときと同様に、試合に集中して全力でボールや相手に向かっていくように手を抜かないで取り組んでみてください。

また、試合に勝ちたいと思う選手は徐々に増えてきてはおりますが、まだ、ただ何となく試合に臨んでいる選手や、勝ちたいとは思っているものの勝つために何をすればよいか考えていない選手が多いです。サッカーは試合が始まってしまえば監督やコーチが試合を止めて指示を出すことはできず、コートに立っている選手自身が自分で考え決断しプレーすることが大切になります。周りの人がああ言ったから、コーチがこう言ったからではなく、さらに強いチームになるために、勝つためには何をすべきか。また、さらにうまくなるためにはどうすればよいか。といったことを自分たちで考えられるようになっていてもらいたいと思います。

保護者の皆様にはこれまで通り、

子供たちがより伸び伸びとサッカーをすることができる環境づくりにご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。(豊田 泰弘)

幼児・小1

新年明けましておめでとうございます。幼児・小1の皆さん、今年も元気にサッカーを楽しみましょう。保護者の皆さま、今年もたくさんの応援とご支援、ご協力をお願いいたします。

さて、昨年末に、クラブワールドカップの決勝戦(バルセロナ4-0サントス)を観戦しました。「個」の南米、「組織」のヨーロッパ、それが融合したのがスペイン、という意識を少なからず持っていた私は、ユーロ2008、2010年ワールドカップでのスペイン、そして(1週間前のバルセロナ3-1レアル・マドリッドも含めて)バルセロナのサッカーを見て、『<組織>を軽視した<個>は輝くことがなく、<組織>は<個>の特徴を引き出して初めて機能する。<組織>は<個>のために、同時に、<個>は<組織>のためにあるべきである。したがって、<個>と<組織>は対極に位置するものではない』という思いを強くしました。

その後、村松尚登氏(FCバルセロナ/スクールコーチ)の「スペイン人はなぜ小さいのにサッカーが強いのか(ソフトバンク新書)」を読みました。

村松氏は、スペインのコーチ仲間からポルト大学ヴァイトル・フラデ教授の「戦術的ピリオダイゼーション」を

紹介され、「この理論に出会うために 11 年間もバルセロナにいたんだ！」と叫びたいほどの感動を覚えたそうです。この理論は、簡潔に表現するなら、『サッカーはサッカーをすることで上手くなる』というもので、『サッカーは、技術・戦術・体力・精神力・攻撃・守備・パス・トラップ・ドリブル・シュート・フェイントなど、ありとあらゆる要素の集合体であり、その一つひとつはサッカーそのものではない。逆に言えば、各要素を切り離して練習をしてもサッカーはうまくなりません。要素の集合体でサッカーをトレーニングすることでしか、サッカーは上達しない』ということを書いているものです。

村松氏は『この理論は、〈個〉と〈組織〉の融合という価値観を持つスペインでは文化として根づき、すでに実践されていたと言えるかもしれない。しかし、そうした文化的側面を明確に定義づけた同理論は、日本のサッカーが強くなるヒントを求めてスペインで 10 年以上もの歳月を過ごしていた私にとって、毎日のように目の前で起こっていることを解釈するための明確な答えでした。〈個〉と〈組織〉の融合は、決してスペイン特有の文化ではなく、サッカーそのものの特性と考えることができます。』と言っています。

私がこの書を読んで最も印象に残ったものは、『サッカーは「石の彫刻」か、それとも「家の建築」か？』というサッカーの捉え方でした。それは、『スペインではサッカーを「石の彫刻」と解釈しています。最も基本と

されるインサイドキックもままならない 8 歳の少年にチーム戦術を指導し、チーム戦術という全体像を学ぶ(荒削りする)過程でインサイドキックやインステップキック、ヘディングやドリブルを少しずつ身につけていきます。さらに、システムやポジションを繰り返し指導する中で、動き方やスペースの活かし方、パスコースの作り方、攻守の切り替え、声を出すことの重要性などを学んでいきます。少年は全体の荒削りを繰り返されることによって、最終的には非常に繊細で、しかもバランスの良い全体像を持つ選手になります。スペイン人はそういった感覚でサッカーを捉え、教える側も教わる側もサッカーを満喫しています。日本ではサッカーを「家の建築」と解釈する傾向にあると思います。ドリブル、パス、シュート、ヘディングとまずは個人技術の習得に始まり、個人戦術の次に複数名によるグループ戦術へ。そして、最後に 11 人対 11 人を想定したチーム戦術の習得に突入します。個人技術とチーム戦術を同時に学ぶことはほとんどありません。なぜなら、「まだ基礎を固めている段階だから」。「家」の全体像が見えてくるのはその子が高校生になった頃でしょうか。』というものです。

指導者としてたいへんに参考になるものであり、子供たちに対して、新たに取り入れるべき要素が発見できたと感じています。

スペイン、そしてバルセロナの『美しく勝つサッカー』を見て感動しない人はいないでしょう。村松氏は、チャ

ビ、イニエスタ、ダビッド・シルバ、ファン・マタ、メッシなど身長 170cm 前後の小柄な選手達が繰り広げる『世界最強』と称されるスペインサッカーの秘密を、育成現場からの視点で伝えてくれています。「日本サッカーが世界で勝つためのヒント」がふんだんに詰まった書として皆さんも是非ともお読みください。

(浜野 正男)

Papas

【年の初めのご挨拶を申し上げます】

昨年のわが国は未曾有の災害、そして原発事故に見舞われました。被災者の支援、そして復興へと向かっていくわけですが、その中でスポーツにできること、スポーツが果たすべきこととは何かと改めて考えさせられました。

年末恒例の新年度シニアリーグ登録も Rec、Comp とも無事終了しました。新しく Rec&Comp に入る方、新しいチームで怪我のない壮年サッカーを楽しみましょう。また Rec&Comp を退部される方、あるいは休部される方、これまで一緒にプレーをしていただきありがとうございました。まだまだ壮年サッカーは続きます。日曜早朝の港北小の活動も春には再開します。永く永く怪我の無い壮年サッカーと一緒に楽しみましょう。

(茅野英一)

ヨーガ

【あけましておめでとうございます】

皆様、明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。今年もひとりでも多くの方に、ヨーガの素晴らしさをお伝えしていきたいと思います。本年もどうぞよろしく願いいたします。

「YOGINI」というヨーガの専門雑誌があります。隔月に発行されていて、ヨーガについての色々な情報を知ることができます。とても綺麗な雑誌で、ページを開くと出版社のこだわりが感じられます。

その「YOGINI」にグナヨーガ DVD についての記事を掲載させていただくことになりました。半ページを使って載せていただいています。それだけではなく、雑誌の最後の方にある「YOGINI Information」でも、取り上げていただいています。

ご興味のある方は、発売中の「YOGINI」(Vol.30)をご覧くださいね。(伊藤 玲子)

理事長の戯言

【天皇杯】

じっくりは見ることはできませんでしたが、いい試合、というか、見ていて面白い試合でした。大会の運営で仲良くなった仲間が、あちこちでテレビに映っていて、元旦から仕事をしている姿に感心しました。表彰式の選手たちの姿が微笑ましく、また、大熊監督の感激ぶりも伝わってきました。

そんな中で一番気持ち良かったのが、終了後にサンガの選手たちが、FC 東京のサポーターに挨拶に行った姿です。NHK のアナウンサーが言っていたように、こういったことは今後習慣化されるといいなと思います。

挨拶が形骸化している少年サッカー界ですので、クラブの子供たちにも、ぜひその意味合いや重要性を伝えていきたいと思います。

ずいぶん長いこと、元旦に国立には行っていませんが、「来年は行っ

てみようかな」なんて考えています。

皆様、今年もどうぞよろしく願いいたします。(内田 佳彦)

内田泰嗣税理士事務所
有限会社トップガン (ワン・ストップサービス)

税理士 内田 泰嗣

横浜市神奈川区入江2-19-11
〒221-0014 大口増田ビル203号
TEL (045) 431-0408
FAX (045) 431-0488

伊藤玲子のヨーガ指導がDVDに！

グナヨーガ
GUNA YOGA



心身ともに健康で、仕事と生活に意欲を取り戻す
身体のためのヨーガから、心身のためのヨーガへ

♪お申込み・お問合せ♪

パソコン・携帯電話から <http://www.iandon.co.jp> にアクセス

クラブ員募集休止について

【幼児・小1、小3、小4クラス】

かねてより、小3・小4クラスは人数の超過から募集を休止しておりましたが、新たに幼児・小1クラスも30名に達しましたので、しばらくの間、募集を休止させていただきます。

なお、一時期募集を休止しておりました小2クラスは募集を再開致しました。ご希望の方はぜひクラブ事務所までご連絡ください。

どうかご了承いただけますようお願いいたします。

かながわクラブ・クラブ員専用の掲示板です。クラブからの重要なお知らせが記載されますので、まめにチェックしていただけると早く正確に情報が伝わります。

<http://8610.teacup.com/kanagawaclub/bbs>



☆ハンドブックについて☆
 今年度より携帯で見られるように作成いたしました。下記のURLをクリックしてご覧ください。
 クラブの理念や指導方針、各種手続き方法、注意事項、スタッフの紹介など重要な情報満載です。是非ご一読下さい。

http://www.kanagawaclub.com/HB/youji_shougakusei.html



スポーツ大好き人間のお店
横浜アンドウスポーツ **ANDOU**

至三ツ沢競技場

保土ヶ谷警察署 コーナン	国道16号 保土ヶ谷区役所	出光 G S
相鉄線星川駅 至横浜		
いなげや	マクドナルド ザンクス	
交番	メインマート	
アンドウスポーツ 駐車場完備(20台) 至保土ヶ谷公園	セブンイレブン 保土ヶ谷 SPC 至国道1号	

※相鉄線星川駅下車3分・横浜新道藤塚インターより5分

アンドウスポーツ
 〒240-0006 横浜市保土ヶ谷区星川2-6-30
 ☎045-331-2461
<http://www.sports-nakama.com/as/>

スポーツで日本を元気にしよう！
スクール生募集中！

キッズ (小学生) 平日 15:45～、16:35～ ジュニア (中高生) 平日 17:25～



紫外線100%カット！
開閉式テントリニューアル



ポイント①

学期中なら振替は
『何回でも』OK!!

ポイント②

インドアのオムニコート
実践的な4面フルコート

横浜テニスカレッジ・横浜ゴルフアカデミー<白楽校>



〒221-0075 横浜市神奈川区白幡上町9-23
 東急東横線白楽駅下車 徒歩3分
 TEL 045-433-6622